

# 住みやすい街づくり 川崎市長に提案

## 車座集會 4学生が参加

川崎市長と市長が対話する「区民車座集會」という佐々木さんは自ら自転車の運転マナー向上について「啓発活動の充実」と提案。その後のディスカッションでは大迫さんらが危険運転に遭遇した体験などを話し、福田市長は「幼稚園や小中学校などでは交通安全の啓発活動も大切だと気付かされた」と感じた。車座集會を終え、佐々木さんは「日常的に感じ



専大生ら10人が福田市長に提案を伝えた

た。新しい企画につながればうれしいと語った。大迫さんは「本学のパラティアサークル『樹々の会』で子どもたちと触れ合い、感じたことを提案した。他大学の学生の意見も聞くことができ、有意義だったと話した。

## 専大附属 高校生たちの 公開模擬裁判

専大松戸

専修大学附属高校と専修大学松戸高校の生徒による公開模擬裁判が11月



審理の行方を見守る高校生

5日、神田キャンパスの法廷教室で開かれた。高校生78人が参加。裁判官、検察官、弁護人役を担当し、殺人未遂事件を審理した。本職の弁護士からアドバイスを受けつつ、被告人間問や被害者の尋問を

外国語の又又々

### 外国語教育 研究室

— 52 —

クリスティの別荘グリーンウェイ。タート川を臨む瀟洒な邸宅

アガサの生まれ育ったトーキー。蒸気機関車の窓から見た色とりどりの浜辺の着替え小屋。そして、クリスティの愛したグリーンウェイ。クリスティの小説で重要な舞台となるポートハウス。どれをとっても子どもたちのところから何度も想像してきた場所で、長いこと思い続けていた人に会えたようなときめきと、こういう場所だったのかとい

**留学の目的はいろいろあっていいと思うよ**

在したのは神経心理学の研究をするためでしたが、ほかに楽しみにしていたことがいくつもあり、その一つがアガサ・クリスティをたどる旅をすることでした。わたしは子どものころからクリスティの大ファンなのです。行きたい所はいろいろありましたが、やはりなんといってもクリスティが生まれ育ったトーキーというイギリス南西部の町が私の憧れでした。そして念願かなって行った旅は、今思い出しても胸の躍る夢のような時間でした。

新鮮な驚きを感じることができました。留学の目的は勉強と思う人もいるかもしれませんが、いろいろな興味や知識があることは海外の文化を楽しむ、海外の人々とならぐために大切です。日本にいるうちにいろいろなことに興味を持ってください。そして目的は一つといわず、いくつもいくつも達成してきてください。(主な担当はリハビリテーション心理学) ※短縮版。全文はCALL教室ホームページで

## 商・奥瀬ゼミ 3年次生チーム 柁の燻製キット考案 部門賞1位・毎日新聞社賞



重ねた柁を使った燻製キット(手前)を考案し、「Sカレ」で毎日新聞社賞を受賞した高橋さん、飯田明さん、飯田里彩さん(左から)

### ゼミ対抗「Sカレ」

研でいぶした燻製をどうぞ。マーケティングを学ぶ全国の大学ゼミ生対抗の選ばれる毎日新聞社賞を受賞した。柁を使った燻製キットを考案、商品化を進めていく。コンテストは「Student Innovation Competition College (Sカレ)」。11月27

Sカレは商品企画をFacebookで公開、寄せられたコメントなどを基に改善していく。秋の大会でコンセプトを競ったと飯田明さん。今年9月19日の専大の大会で商品化権獲得を目指し最終プランを提案する。今年26大学31ゼミが競った。参加2回目の奥瀬ゼミからは、3年次生が3人1組となり5チームがエントリーした。挑戦するテーマは段ボール、マグネットなどさまざま。そのうち(備大橋)術商品部門に手を挙げたのは、飯田明さん、飯田里彩さん、高橋礼奈さんのグループ。6月から活動を始め、まな板やあぶりセットなどアイデアを出し、最後にたどり着いたのが燻製キットだった。 「キャンプで燻製を作ることができ、柁でもできるのではないかと考えた」と飯田明さん。9月から試作品作りに取りかかった。いぶす際に柁が焦げてしまうという課題もあったが、企業側から柁内部に石こうを流し込むというヒントをもらい、前に進むことができた。完成したのは最終発表の直前。「Mask of」の直前。「Mask of」と命名された商品は一升の中に、五合柁、一合柁、三斗柁が入っており、大きな二つの柁と網、スモークウッドで燻製する。小さな柁はお酒用という遊び心たっぷりの商品となった。 さっそく卵とチーズを焼く。飯田里彩さんは大きく広がる。

## 生田と神田で防災訓練



大地震など災害に備えて防災意識を高めてもらうと11月14日から18日まで、生田・神田両キャンパスで防災訓練が行われた。 期間中は日に1度、各教室に緊急地震速報が流れ、机の下に隠れて身を守る初期安全行動訓練(シエイクアウト訓練)が行われた。最終日には昨年導入された安全確認システムの運用訓練も行われ、実際に操作方法を体験した。

16日に両キャンパスで行われた各種体験訓練は、多摩消防署、神田消防署が協力。非常食が配布され、消火器の使い方や学が参加し、緊急時の対処法を学んだ。



消防隊員が応急担架での搬送を実施＝神田キャンパス